

令和6年度 第2回 村上市子ども・子育て会議 会議録

会 議 名	令和6年度 第2回 村上市子ども・子育て会議
日 時	令和6年10月7日（月）午後2時～
会 場	村上市役所 大会議室（4階）
出 席 者	出席委員：12名 國田委員、飯島委員、佐藤委員、市井委員、長委員、竹田委員、富樫委員 （副委員長）小池委員、工藤委員、本間委員、鈴木委員、仲委員（委員長） ※名簿順
	欠席委員：小田委員、齋藤委員
	オブザーバー：鈴木氏、（欠席）松田氏
	事務局：大滝副市長、太田福祉課長、押切保健医療課長、平山生涯学習課長、小川学校教育課長、こども課 山田課長、高橋洋一室長、菅井副参事、高橋係長、長谷部室長、渡辺係長、渡邊主査 福祉課 石嶋室長

会議抄録	
1	開会
2	委員長あいさつ
3	諮問
4	議事
	（1）子どもの生活についての調査結果について
	※資料No.1について、事務局から説明
	委 員 長：調査結果において村上市の特徴があれば教えていただきたいと思います。
	事 務 局：どこの地域でも同じような課題を抱えていると思いますが、特に地域社会との関係については、若者が地域と関われる機会がだいぶ限られているという結果が割合として高かったかと思います。
	併せて、将来住み続けたいと答えた方の割合が若干低いと感じます。市外に出ることが前提で、戻ってきたいと思うが、将来のことはわからないと答えた方の割合が高かつ

たと思います。

そこに付随する、仕事や職場など、働くことがどうしてもセットになるので、その機会を考えると外に出たいと考えている方が高い印象を受けました。

委員長：オブザーバーとして中学生に近い立場からお気づきの点があればお願いします。

オブザーバー：中学生と毎日接していますが、案外自分のことしか書いていないと思っております。それでも自分なりに考えてくれていることを感じました。

委員：中学生の調査方法は、郵送配布、施設配布ということでしたが、どのように対象数が決められているのでしょうか。私の家族も調査の対象だと思いますが、調査票が届かなかったと思います。また、若者調査についても、2,000件抽出した根拠はあるのでしょうか。回収率が24%というのは少ないと思うので、どの程度を出てきたのか気になりました。

事務局：郵送配布、郵送回収については、市内の中学校を通じて発送させていただきました。地域の中学校以外にも、特別支援学校と市立以外の中学校に通っている方に郵送で送っていますが、不着があったことを確認しています。市立以外の中学校に通っている方には185件発送し、返答が102件あります。

若者調査の2000人の抽出についてですが、7月時点で村上市に住民票を置かれている15歳から39歳の方が約9,200人います。統計上、有効な回答を得るために必要な部数があり、母数9,200人に対して少なくとも大体370件ぐらいの回答があれば、統計学上、有効であると考えられます。

その370件以上の回答を得るために何件配布するかといったところを計算させていただきましたが、やはりどうしても若者の方については回収率が低くなってしまう傾向があります。一般的なアンケートですと3割台あるいは4割台といったところが平均的な回収率ですが、それより低くなってしまうということで、回収率の想定を20%として計算したところ、370件を得るためには約1,800件必要という話になり、そこから若干の余裕を見て、2,000件の配布で考え方をまとめさせていただいたところになります。

今回の回収件数としては480件ありましたので、統計の分析上は、必要なサンプル数を得ることができたと捉えています。

委員長：支援が必要な方は、アンケートを受け取っても回答しづらいということもあるかもしれません。

委員：自分自身の家庭への満足度は予想以上に高いと感じました。反面、地域での関わりや関心は薄いのかと思いました。そのあたりが計画に盛り込まれていくことを期待したいと思います。

委員：私は今の意見とは逆に、回収率が25%で、残りの75%の意見はどうなのかも考えていか

ないといけないと思います。自由回答も多く、具体的に出ていますので、これについて参考にしながらか計画を作つてほしいと思います。

委員：村上市のことや市の取組について、村上市が好きだと答えている割合は高いのに、住み続けたいと思う割合が低くなることについて、考えていかなければならないと思います。

委員：村上市の中学校は、前向きにいろんなことを考えていると思いますが、居心地のいい場所にばかりいるわけではなく、いろんなことで傷ついたり失敗したりしたとき、戻ってくるみたいな人も結構おり、そういう方を受け入れられる土壌もあると思います。一方で、将来のことをあまり考えることができていないとも感じており、目の前のことだけでなく、将来のことも考えていけるといいと思います。それが小中高と繋がって、地域のことを考えて、自分の成長とも併せて考えられるような、そういったものを学校でもっと学べないかと思っています。

委員：中学生のアンケートで、将来の夢や目標がある生徒も半分以上いるなかで、進学するにあたって家庭の事情や経済的な理由でできない人もいると思うと、将来的なことも含めて支援を考えていくべきだと思います。アンケートの自由回答について、中学生なりに考えて書いているのかなと感じました。

委員：先日、肴町で村上甚句や獅子舞があり、子どもたちの育ちに関わっていると感じました。私自身は一度東京で暮らしたことはありましたが、子育ては、東京よりも村上市のほうがいいと感じました。地域のつながりもあると思いました。自由回答をみて、村上が好きな中学生がいてうれしかったです。

委員長：市外に出たいと答える割合も多いですが、出てから村上市の魅力がわかるということもあると思います。

委員：74ページについては、「生きづらさ」を感じてしまっている背景は何なのかと思いました。自分のことを知っている人が多く、その上で生きづらさを感じているのであれば、状況に合わせてアプローチの仕方を考えなくてはいけないと思います。

また、悩みや心配事について、年代別にみると、「子どもや若者の居場所づくりを推進する」「困難を抱える子供や若者を包括的に支援する体制を整備する」が多いのは20歳代、「お金の心配をすることなく学べる（進学・塾に行く）ように支援する」が多いのは30歳代の子育て世代で、当事者が欲していることだと思いました。

委員長：年代別の傾向についても、いろいろな角度でみていく必要があると思います。

（2）第2期村上市子ども・子育て支援事業計画に 令和5年度実績について

※資料No. 2について、事務局から説明

委員：1点目、ファミサポの利用者数が増えていますが、具体的な支援内容を知りたいです。

2点目として、計画にはないですが、保育園児に対し、SNSやYouTubeの利用抑制を親ができていない現状があると思います。幼児のうちから癪癪を起す、時間を守れない、依存があるといった影響があると思いますが、学校現場や研修としてどのようなことをしているのかを伺いたいです。

事務局：まず、ファミリーサポートセンターの実績内容についてですが、2,080件のうち、おおむね習い事等への送迎が主となっており、その他、学童保育終了後の預かりや、保護者が外出した際の預かりといった支援が主な内容になっております。

事務局：2点目ですが、私の知る限りSNSの利用について、直接の指導をしているわけではなく、都度利用の制限などについて話をしています。

事務局：学校の方の取り組みですが、県で進めている新潟県SNS教育プログラムがあり、それをもとに現場で指導しています。

ワザバー：学校側から配布しているタブレットについては、利用時間は9時までとなっており、それ以降はつながらないようになっています。

委員：乳幼児期の検診では、なにかしていないのでしょうか。

事務局：健診の際にスマートフォンで子守をさせないということで、日頃の声掛けやふれあいの場を楽しみましょうと指導していますが、なかなか徹底しきれていない現状もあると思います。

委員：こどものSNSの正しい知識は、どの段階で教育されるのでしょうか。

ワザバー：学校では発達段階に応じて対応しています。小学生のときには、情報モラル教育など、発達段階に応じた学習をしています。中学校では、県のプログラムに基づいて学習をします。小学校5年生ぐらいからスマートフォン等を持たせる家庭が多くなりますので、警察の方に来ていただいて、保護者に対しても、SNSでトラブルが起こった場合には保護者の責任になるという話をさせていただいています。技術家庭科で、教科書の中に多少の内容が載っていますが、具体的なことについては、警察から来ていただいて話してもらうことが多いです。

委員：幼児期からスマートフォンをいじっている状況なので、できるだけ早い段階で知識として必要なのではないかと思います。

委員：評価のDが気になりますが、こども110番で、なかなか地域の実情に応じたパトロールができないということが書いてありましたが、私の地域では声かけをして登録していただいたことがありました。育成会や町内会などと連携できれば、もう少し充実してくるのではないかなと思いました。

委員：今の話ですが、民生児童委員の活動を通してパトロールしております。

委員：キャリアスタートウィーク事業ですが、体験をやって終わりではなく、改善点などをフィードバックする場があると、学校と事業者と市の関係性が良くなると思います。

事務局：150近くの事業者を受け入れていただいておりますが、細かい意見まで吸い上げられていないと思いますので、学校に伝えていただければ、そういう反省の中で新たな課題が修正できると思います。

委員：放課後子ども教室の委託を受けており、子供たちも楽しく活動してくれています。こういった形でデータを出していただければと思います。

委員：今の放課後子ども教室について、神林地区を除き全小学校で実施しているとありますが、神林地区は需要がないから実施していないということでしょうか。

事務局：神林地区では、従来から総合型スポーツクラブで事業実施されており、それが浸透した関係で、放課後子ども教室の実施に至っていない状況です。

委員：希望するお子さんの行く場所がないということではなく、従来の放課後子ども教室ではないけれども、行く場所があるということでしょうか。

事務局：放課後の居場所づくりという意味合いで、役割を持っていると思います。

（３）こども計画骨子案について

※資料No. 3について、事務局から説明

委員長：確認ですが、今回は報告を受けるということで、審議ではないということでしょうか。今回も意見を申し上げていいのでしょうか。

事務局：計画の全体像を説明させていただきましたので、それに対しご意見をいただきたいと思っています。

委員：アンケートでも少し思うことはありますが、中高生は村上市が好きか、今後も住み続けたいかについての対応は、こども課だけの対応ではないと思います。今後は、市の取り組みを掲げていくことになりますので、次回、４章以降はこども課で説明をしてもらいたいと思います。

また、新規事業について、新聞で小１の壁対策として、朝の預かりについての調査をこども家庭庁が行うという記事を読みました。すでに実施されているのでしょうか。この辺ではニーズが高いとは思いますが、対応を考えていく必要があると思います。

事務局：新規事業は子ども・子育て支援法・児童福祉法で規定されている地域子ども・子育て支援事業として位置づけられたものです。

その他の事業については、国からの指針に合わせて位置づけていくことになりますが、ご意見等を踏まえて今後対応していきます。

委員：今後国から方針が示されれば、位置づけていくということですね。

委員：今の早朝預かりですが、ファミサポにも依頼はあります。提供側は朝預かることは辛いので、実現はしていないのではないかなと思います。また、特別支援学校は開校が遅いため、放課後等デイサービスで対応している事例があります。

事務局：ファミリーサポートセンターでは、小学校登校前後の預かりということで実績はあります。

委員長：次回の会議で、こども計画の内容が出てくると思います。

委員：アンケートの結果について、若者の調査結果が出てくるということですか。また、課題のまとめにも反映されてくるということですか。

事務局：次回、詳細について計画書に掲載して説明させていただきます。

委員：施策、具体的に取り組む内容については、これから示されるのですか。

事務局：そのように考えております。

委員：切れ目のない支援ということで、今年度になってから赤ちゃん世代と繋がる機会ができ、その親御さんたちから話を聞くと、相談する場がないという話を聞きます。保健師とは定期的な繋がりはあるのかもしれませんが、気軽な関係性でいつでも何か話を聞いてもらうような場がないと聞いています。出産前後の方が集まれるようなことは考えていないのですか。

事務局：今年度からこども家庭センターができ、児童福祉の分野と保健医療の分野の包括的な体制が整いましたが、これまでそれぞれでやってきた部分の整理が必要だと思います。

委員：個別の一对一ではなくて、グループ、仲間内で相談できる場はありますか。

事務局：個別の一对一場は保健師が妊娠時から関わるようにしていますが、生まれた後の場については、子育てひろばなどを紹介しておりますので、そういう場を活用してもらうようにしています。

委員：子どもの関わり方や、自分のことを認める心を育てる場になっていると思いますが、ここに来るまでに、もう少し育ててほしいという思いもあります。例えば新潟市などではノーバディーズパーフェクトというプログラムがあり、自己肯定感を与えて周りの方たちとのコミュニケーションをスムーズに行ったりしており、実際に関わっている方たちの話を聞くと、プログラムを受けたことで、子どもを作ることに関向きになる方が増えていくということもあるので、ぜひ検討していただければと思います。

事務局：子育て支援センターがあり、プッシュ型でなく受け身型ですが、お母さん方の相談に対応していますので、PRしていきながら、皆様にもご協力いただきながら進めていければと思います。

委員：今日は内容の濃い会議だと思っていました。去年の会議の際に村上駅周辺まちづくり事業の話がでましたが、その事業に子育てゾーンや交流ゾーンの要素を入れ込んでいくこ

とができれば、今後、交流の場が広がったり、子育てしている方にも影響は出てく
思うので、そこで方法などをもっと検討していけばいいのではないかと思います。

委 員 長：議事については次回に引き継いでやっていければと思います。

5 その他

6 次回の会議日程

令和6年12月上旬 午後2時～ 村上市役所

7 閉 会 副委員長挨拶